

HIV 治療と ACC の歴史

2000

「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」成立
世界エイズ・結核・マラリア対策基金が発足



エイズ予防法廃止
「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」制定
「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」制定
薬害根絶を願い、厚生労働省の正面玄関前に
「誓いの碑」が設置される

免疫機能障害が身体障害者・障害年金の対象に認定
国内で初めて非核酸系逆転写酵素阻害剤（ピラミューン®）発売

全国 8 ブロックに 14 のブロック拠点病院が整備
プロテアーゼ阻害剤 Indinavir（クリキシバン®）発売
多剤併用療法（HAART）が可能となり予後が大きく改善した

3月 | 東京・大阪 HIV 訴訟の和解が成立
4月 | 日本で第 3 番目の抗 HIV 薬 ddC（ハイビッド®）が承認される
国連合同エイズ計画（UNAIDS）が発足

7月 | 厚生省を 3500 人で囲む「人間のくさり」

8月 | 第 10 回国際エイズ会議 / 国際 STD 会議が横浜で開催

エイズ治療拠点病院整備

6月 | 日本で第 2 番目の抗 HIV 薬 ddI（ヴァイデックス®）が承認される

レッドリボンが AIDS 啓発の世界的なシンボルになる

1990

2月 | 「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律（エイズ予防法）」施行
5月 | 大阪 HIV 訴訟第 1 次原告提訴
10月 | 東京 HIV 訴訟第 1 次原告提訴

第 1 回世界エイズデー（12月1日）

日本で初めての抗 HIV 薬 AZT（レトロビル®カプセル）が承認される

2月 | 非加熱血液製剤の自己注射が保険適用される
3月 | CDC が 11 例の血友病患者の HIV 感染は血液製剤が原因とみられると報告
3月 | 米食品医薬品局（FDA）が米国で加熱製剤を承認
7月 | 日本初の薬害エイズ被害者の報告
7月 | フランスのモンタニエ氏と米国のギャロ氏が同時期に原因ウイルスを分離し、後に HIV と命名される

CDC が血友病患者のエイズ症例、輸血・血液製剤によるエイズ症例を報告

米国疾病予防管理センター（CDC）が男性同性愛者 5 名のカリニ肺炎を報告

1980

2005

【臨床研究】 1日1回併用療法が無作為割付多施設共同試験：QD 試験
【資料開発】 医療者向けテキスト「診断と治療ハンドブック」初版発行
【資料開発】 e-ラーニング開設

2004

【大規模国際共同研究】 2種類の抗 HIV 治療法比較の大規模臨床試験（SMART 試験）に参加
【研修】 首都圏の医療機関への出張研修開始

2003

【国際共同治験】 抗 HIV 治療薬による顔面脂肪萎縮に対する GH 投与臨床試験
【資料開発】 「HIV/AIDS 看護ハンドブック」発行

2002

登録患者数が 1000 人に達する

2001

【資料開発】 HIV Q&A 発行
東京大学移植外科と協力し、世界初 HIV/HCV 重複感染血友病患者の生体部分肝移植が実現

【臨床研究】 薬剤血中濃度と代謝酵素に関するテーラーメイド治療の開発：ストックリン減量試験・ザンビアとの共同研究
【国際研究】 アジア 20 カ国の大規模コホート研究 TREAT Asia に参加
【資料開発】 患者向け教材 患者ノート英語版発行

2000

【臨床研究】 副作用としてのミトコンドリア障害に関連する体質に関する研究
【国際共同治験】 ESPRIT 国内から海外 HIV 臨床治験に初参加
【研修】 アドバンスコース開設
【資料開発】 医療者向けテキスト「エイズ・クオリティケアガイド」発行

1999

【臨床研究】 計画的治療中断（STI）
【研修】 歯科、短期基礎コース開設
【資料開発】 医療者向けビデオ教材「実践！エイズータルケア」ver1.0 発行
【資料開発】 医療者向けテキスト「針刺し事故防止ハンドブック - 肝炎 / AIDS への対応 -」発行

1998

1997

4月 | エイズ治療・研究開発センター開設・専門外来開棟
10月 | 専門病棟 5階南病棟（20床）開棟

【研修】 全国の医療者を対象に ACC 研修開設
【資料開発】 患者向け資料患者ノート初版発行

1996



1995

1994

1993

1992

1991

1989

1988

1987

1983

1982

1981

国立病院医療センター（当時）に「エイズ医療情報センター」設置

